

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成21年6月4日(2009.6.4)

【公表番号】特表2004-529936(P2004-529936A)

【公表日】平成16年9月30日(2004.9.30)

【年通号数】公開・登録公報2004-038

【出願番号】特願2002-585441(P2002-585441)

【国際特許分類】

C 07 D 519/00	(2006.01)
A 61 K 31/439	(2006.01)
A 61 K 31/4985	(2006.01)
A 61 P 1/04	(2006.01)
A 61 P 1/08	(2006.01)
A 61 P 1/14	(2006.01)
A 61 P 3/04	(2006.01)
A 61 P 5/24	(2006.01)
A 61 P 15/00	(2006.01)
A 61 P 21/04	(2006.01)
A 61 P 25/06	(2006.01)
A 61 P 25/14	(2006.01)
A 61 P 25/16	(2006.01)
A 61 P 25/18	(2006.01)
A 61 P 25/22	(2006.01)
A 61 P 25/24	(2006.01)
A 61 P 25/28	(2006.01)
A 61 P 25/30	(2006.01)
A 61 P 43/00	(2006.01)

【F I】

C 07 D 519/00	3 1 1
A 61 K 31/439	
A 61 K 31/4985	
A 61 P 1/04	
A 61 P 1/08	
A 61 P 1/14	
A 61 P 3/04	
A 61 P 5/24	
A 61 P 15/00	
A 61 P 21/04	
A 61 P 25/06	
A 61 P 25/14	
A 61 P 25/16	
A 61 P 25/18	
A 61 P 25/22	
A 61 P 25/24	
A 61 P 25/28	
A 61 P 25/30	
A 61 P 43/00	
A 61 P 43/00	1 1 1

【誤訳訂正書】**【提出日】**平成21年4月6日(2009.4.6)**【誤訳訂正1】****【訂正対象書類名】**明細書**【訂正対象項目名】**0009**【訂正方法】**変更**【訂正の内容】****【0009】**

脳中のセロトニン5-HT₆レセプターの最大の密度は、嗅結節中に、側坐核中に、線条中に、歯状回中におよび海馬のCA1-3領域中に見出される。これらの領域は、精神医学的障害、例えば統合失調症または抑うつ症において、特に大きい程度に関与する。さらに、動物実験から、5-HT₆アンチセンスオリゴヌクレオチドの投与により、ドーパミンアゴニストのものに対応する行動症候群が生じることが知られている。さらに、ドーパミン作動性神経伝達物質系の機能亢進は、統合失調症において病態生理学的に保護される（統合失調症のドーパミン仮説）。しかし、ドーパミン系の機能不全はまた、抑うつ症の種々の臨床的形態において見出された。さらに、多数の確立され、また臨床的実際におけるこれらの精神医学的障害の治療のために用いられる一層最近の治療剤は、5-HT₆レセプターに結合する。特に、ここで、異型の神経弛緩薬（例えばクロザピン）および三環系抗うつ剤（例えばアミトリプチリン）を述べることができる。

【誤訳訂正2】**【訂正対象書類名】**明細書**【訂正対象項目名】**0012**【訂正方法】**変更**【訂正の内容】****【0012】**

従って、式Iで表される物質で処置することができる疾患には、精神病、統合失調症、抑うつ症、不安状態、痴呆、特にアルツハイマー病およびレーヴィ体痴呆、神経変性(neurodegenerative)障害、パーキンソン病、筋萎縮側索硬化、ハンティングトン病、ツレット症候群、学習および記憶拘束、過食症、神経性食欲不振または他の摂食障害、強迫行動、月経前症候群、年齢により誘発される記憶障害およびニコチン依存症における離脱症状の改善が含まれる。これらの神経保護作用により、式Iで表される化合物は、発作および有毒化合物による脳損傷において用いられる。従って、式Iで表される化合物およびこれらの生理学的に許容し得る塩は、中枢神経系の疾患のための治療的活性成分として好適である。

【誤訳訂正3】**【訂正対象書類名】**明細書**【訂正対象項目名】**0057**【訂正方法】**変更**【訂正の内容】****【0057】**

本発明は、さらに、統合失調症、抑うつ症、不安状態、痴呆、アルツハイマー病、レーヴィ体痴呆、神経変性障害、パーキンソン病、ハンティングトン病、ツレット症候群、学習および記憶拘束、年齢により誘発される記憶障害、ニコチン依存症における離脱症状の改善、発作または有毒化合物による脳損傷の予防または処置のための、ニコチン性アセチルコリンレセプターリガンドおよび／またはセロトニン作動性リガンドとしての、本発明の医薬活性成分に関する。

【誤訳訂正4】**【訂正対象書類名】**明細書**【訂正対象項目名】**0063**【訂正方法】**変更

【訂正の内容】**【0063】**

本発明は、さらに、精神病、統合失調症、抑うつ症、不安状態、痴呆、特にアルツハイマー病およびレーヴィ体痴呆、神経変性障害、パーキンソン病、筋萎縮側索硬化、ハンティングトン病、ツレット症候群、学習および記憶拘束、過食症、神経性食欲不振または他の摂食障害、強迫行動、月経前症候群、年齢により誘発される記憶障害、ニコチン依存症における離脱症状の改善、発作または有毒化合物による脳損傷の予防または処置のための医薬の製造のための、請求項1に記載の式Iで表される化合物および／またはこれらの生理学的に許容し得る塩および溶媒和物の使用に関する。